

「クロアチア・フォーラム2015」における

藪浦健太郎外務大臣政務官によるスピーチ

【冒頭】

議長、御列席の皆様、

本日は、クロアチア・フォーラムに御招待いただき、誠にありがとうございます。このような重要な会議を長年ホストされているクロアチア政府のリーダーシップに敬意を表します。

【日本のODAの歴史と特色】

今次フォーラムのテーマは開発協力と聞いております。今年には第二次世界大戦が終わって70年です。この間、日本は援助を受け取る側から、支援する側に転換し、開発協力について様々な経験をしました。日本の援助は、そうした経験を踏まえ、つぎの3つの理念を持っています。

第一に自助努力の後押しです。

日本は、自らの経験から、途上国のオーナーシップが大切であることを知っています。これまでも、自ら成長を切り開いていく力を育てることを後押ししてきました。

その基礎をなしているのが、人づくりです。これまで12万人以上の専門家を世界各地に派遣し、50万人以上の研修員を日本に受け入れました。

第二に持続的な経済成長の実現です。

経済成長なくして貧困の撲滅は不可能です。ODAにより橋、道路、港湾といった途上国の経済社会インフラを整備することで、民間投資を呼び込む。そして、途上国に雇用と持続的な成長をもたらし、それを貧困削減につなげる。この日本型援助はアジア諸国の飛躍的發展に大きく貢献したと自負しています。

第三に人間の安全保障の重視です。

恐怖あるいは欠乏といった困難な状況にある人々を、紛争、感染症、災害といった様々な脅威から守り、その人たちの能力強化を手助けする援助です。

皆様の中にも明日のスレブレニツァでの式典に参加される方もいらっしゃると思います。同地でも日本人の農業専門家が働いています。農牧業の技術協力を通じて、帰還家族や母子家庭の経済的自立と民族和解の手助けをしています。

これこそが人間の安全保障の視点に立った援助です。

【日本の南東欧諸国支援】

日本は、このような援助理念に基づいて、南東欧地域に対して、総額約22億米ドルの二国間ODAを実施してきました。紛争中の難民センター建設から、紛争後の橋や学校校舎の再建などの支援、国造りのための人材育成に至る「継ぎ目の無い支援」を行ってきました。

本フォーラムを主催するクロアチアは民主化、市場経済化を達成してEU加盟を実現しました。クロアチアも今や援助する側に立場を変えて、このようなフォーラムを開催して、世界の開発援助に知的貢献を行うまでになりました。心から敬意を表したいと思います。

日本と南東欧諸国の協力関係は、クロアチアにおけるプロミンC石炭火力発電所に代表されるように互いの企業による投資が今後の主役になるべきです。同時に、この地域の政治的安定の定着や環境問題対策といった残された課題に対しては、引き続きODAを通じた支援を継続していきます。

【これからの時代のODA】

最後に、午前中の議論のテーマについて私なりの考えを述べたいと思います。

「安全保障と開発」については、脆弱国への支援の重要性を強調したいと思います。アフガニスタン、イエメン、シリア、

リビア，ソマリア，南スーダンといった脆弱国を放置すれば，そこを拠点とするテロ集団が隣接する成長地域の平和と繁栄を脅かし，ひいては世界の脅威となることは，最近の事例で明らかでしょう。国際社会の平和と安定を確保するためには，こうした脆弱国への支援を強化する必要があります。

次に，「援助主体の多様化」です。新興援助国の台頭，NGOの独自の手法による有益な貢献，南南協力などが進むにつれて，援助国が選ばれる側に回るという局面も出てきています。各援助主体は「協調」と「競争」のスピリットで，お互いに切磋琢磨しながら，質が高くコストを含めて競争力のある事業を生み出すことが求められています。

それに対する日本の答えの一つが，既存の援助機関をJICAに統合し，有償資金協力，無償資金協力，技術協力の全てを行う世界でも例の少ない総合的援助機関に変革するということでした。

さらに，従来のODA大綱を12年ぶりに見直して，本年2月に開発協力大綱へと改定しました。

この大綱では，ただ闇雲に成長を求めるのではなく，成長の果実が中間層，貧困層に幅広く行き渡るような「質の高い成長」の実現を目標に掲げました。また，法の支配の確立，グッドガバナンスの実現，民主化の定着，女性の権利の向上といった分

野での支援も更に強化していきます。

我が国援助のお家芸とも言えるインフラ支援についても、時代と受入国の状況にあった不断の改善を続けています。例えば、円借款で建設されたインド・ニューデリーの地下鉄では、女性専用車両や緊急通報システムの導入やバリアフリー化を実現し、現在のインド社会の実情を踏まえ女性や障害者にも使いやすいものとなりました。長持ちして、使いやすく、環境に優しい、そして費用対効果も高い「質の高いインフラ」を提供していきます。

【結び】

世界が大きく変動している今の時代にこそ、「未来への投資」であるODAには果たすべき新たな役割があります。60年の歴史を有する日本型援助の良き伝統を踏まえながら、国際社会の開発分野の議論に積極的に貢献しつつ、時代の求める役割を果たせるODAを不断に模索していきたいと思えます。

ご清聴ありがとうございました。

(了)